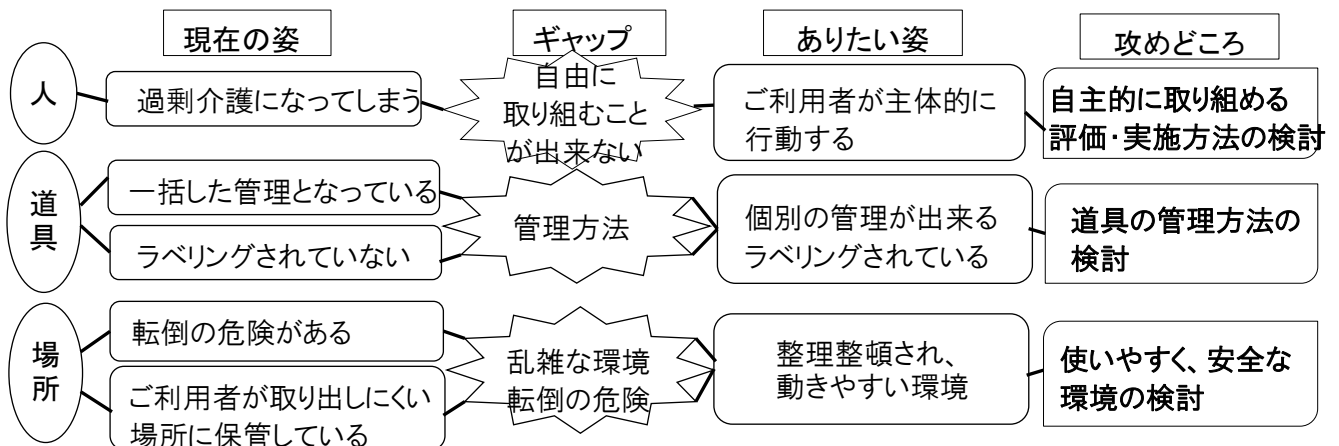
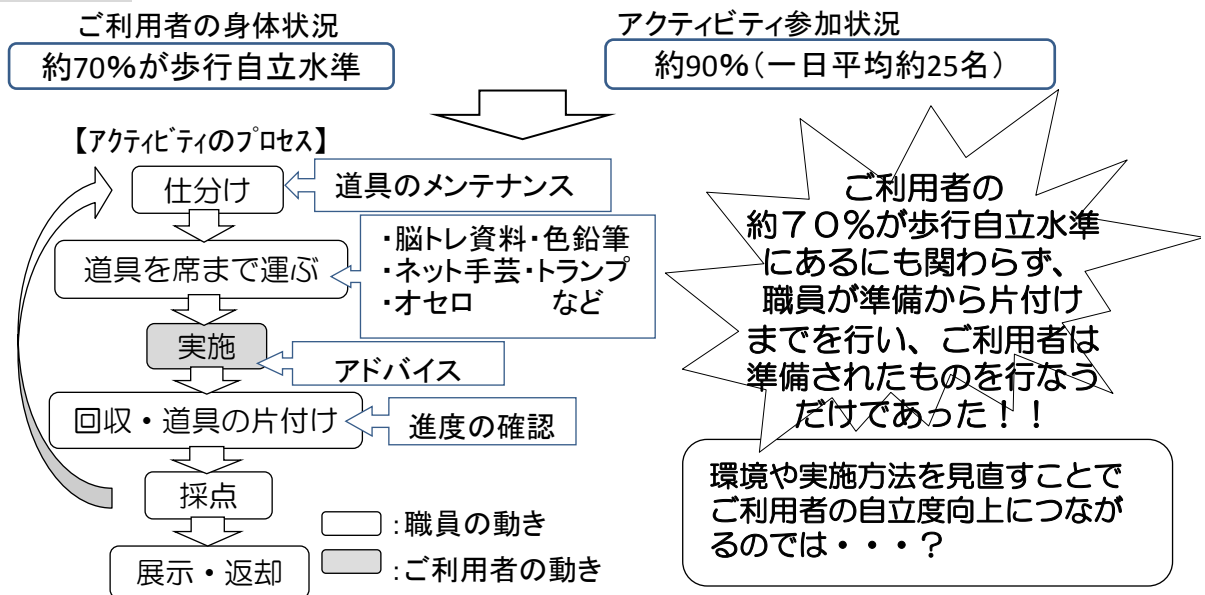


演題名	アクティビティを考えよう！！ ～環境変化でご利用者の自立度アップ大作戦！！～		
施設名	喬成会 ふれあいクリニック	発表者(職種)	小伊勢 恭子 (介護福祉士)
活動の種類	質・安全 (能率・CS) モラル・コスト	取り組み種別	問題解決型 ・ 課題達成型
改善しようとした問題 課題	アクティビティに関わる事業所内の環境改善及びご利用者の自立度向上		
改善の指標とその目標値	(指標)アクティビティを行なっているご利用者 (人数) (目標値)道具の自己管理が可能なご利用者 25名/25名(100%)		
実施した対策	①ご利用者の身体状況の把握(転倒チェックシート、業務連絡ボード)、 ②解答用紙・ぬり絵見本の準備、③個人ファイルの作成、④ラベリング(棚、道具)、 ⑤アクティビティコーナーのレイアウト変更(棚板の購入、身体状況に合わせた道具配置)		
改善指標の対策実施前後の変化	(実施前)アクティビティの道具の自己管理0%(0名/25名) (実施後)アクティビティの道具の自己管理100%(25名/25名)		
チームの名称	えがお増やし隊(^-^)♪	リーダー名(職種)	小伊 勢恭子 (介護福祉士)
		チームの人数	8 名
活動状況	平成 26 年 6 月～ 11 月	平均会合時間	30 分
	会合回数	18 回	平均会合出席率

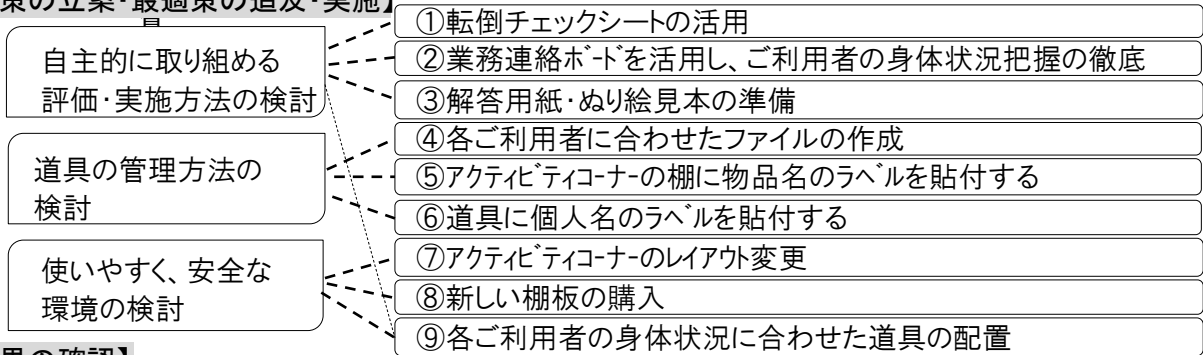
【課題の明確化】



【目標設定】

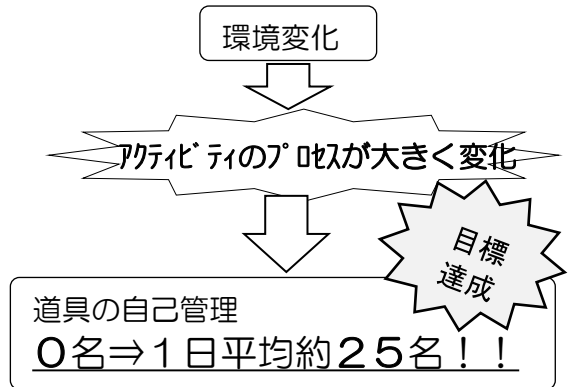
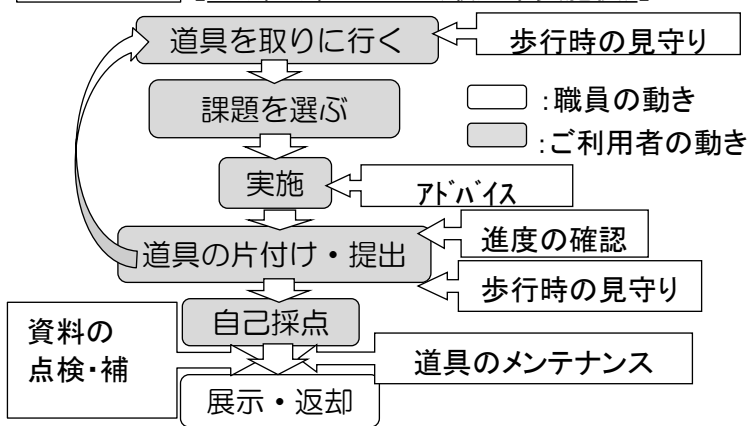
平成26年10月までにアクティビティの環境を整備し、ご利用者が道具を100%自己管理できる

【方策の立案・最適策の追及・実施】



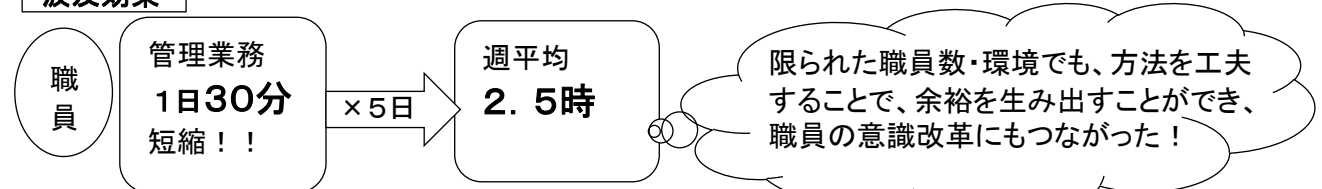
【効果の確認】

有形効果 【アクティビティのプロセス(最適策実施後)】



無形効果

- ご利用者の声
- ・個人ファイルが「自分のもの」と感じられ、今まで以上に活動してみたいという気持ちになった。
 - ・職員にお願いするのではなく、自分のタイミングで動くことが出来るようになって嬉しい。
- 波及効果
- ・道具の場所がわかりやすくなって、自分でやってみようという気持ちになった。



【標準化と管理の定着】

	方策案	何を	いつ	どこで	だれが	どうする
標準化	物品が所定の位置にあるかを確認する	道具	毎朝	物品庫フロア	担当者	確認する
	道具のメンテナンス	道具	毎朝	物品庫フロア	担当者	メンテナンス
管理	資料がマンネリ化しないようにする	原本・見本問題・解答	1回/月	フロア	担当者	資料を入れ替える
教育	マニュアルを作成する	マニュアル	新入職員入職時	スタッフルーム	担当者	説明する

【反省と今後の進め方】

疾患が原因でアクティビティに参加するのが難しいご利用者の笑顔も引き出していけるような対応を今後の課題として職員一丸となって取り組んでいきたい！

